

初年次のアカデミックスキル育成を通して
全学生に植え付ける

三重大学

約1300人の新入生に対し特別プログラムを実施。 育った学生は、2年以降、 全学の社会人基礎力育成も支援

三重大学が、学生の育成目標として定めた能力は、「感じる力」「考える力」「コミュニケーション」「生きる力」の「4つの力」で、学士力や「社会人基礎力」などのように、専門知識や基礎学力だけでなく、人間性の全体を包含しています。一言を持つ専門家が集まる大学で、このような能力のフレームを学内に浸透させることは、簡単なことではありません。もちろんそのような過程を経て教員が理解を深めていくことは大切ですが、それと同時に、三重大学は、学生の変化、それ自体が大学改革に大きな力を発揮するであろうとの着想の下、学生に焦点化した取り組みを行っています。

全学共通の初年次教育で、学生自身に「4つの力」の意識付けを図る

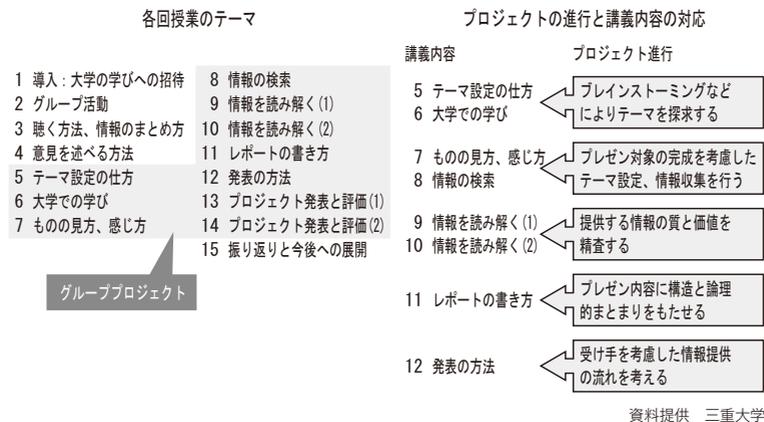
三重大学では、全学共通の初年次教育を通して、新入生全員（5学部・約1300人）が「4つの力」を理解し、その能力を向上させることを教育改革の柱に置きました。初年次教育の科目である「『4つの力』スタートアップセミナー」は、基本的には、学部学科別で編成された約40人のクラスで、各回異なる「力」にポイントが置かれた授業を行います。この科目のために、カリキュラム作成に関わり、授業を実施する教員も採用されました。その内容は、「4人1グループのディスカッション」「講義（15分程度）」「グループプロジェクト」などが各回組み込まれた能動的・実践的学習です。ノートテイキング・情報リテラシー・レポート作成・プレゼンテーションなどのスキルを身に付けることも目標です。

教育目標の「4つの力」

| 社会性 | 領域 | 三重大学の教育目標の「4つの力」 | 社会人基礎力（職場や地域社会で必要となる能力）領域では |
|-----|-------|------------------|--|
| 個人的 | 情意 | 感じる力 | 前に踏み出す力（主体性、働きかけ力、実行力）など |
| | 認知 | 考える力 | 考え抜く力（課題発見力、計画力、創造力）など |
| 社会的 | 情意・認知 | コミュニケーション | チームで働く力（発信力、傾聴力、柔軟性、状況把握力、規律性、ストレスコントロール力）など |
| 総合的 | | 生きる力 | |

資料提供 三重大学

「『4つの力』スタートアップセミナー」各回授業のテーマ



別で編成された約40人のクラスで、各回異なる「力」にポイントが置かれた授業を行います。この科目のために、カリキュラム作成に関わり、授業を実施する教員も採用されました。その内容は、「4人1グループのディスカッション」「講義（15分程度）」「グループプロジェクト」などが各回組み込まれた能動的・実践的学習です。ノートテイキング・情報リテラシー・レポート作成・プレゼンテーションなどのスキルを身に付けることも目標です。

授業の最後には、グループごとに「4つの力」をもとにリフレクション（反省）を行い、「学習リフレクションシート」を作成します。シートには、「4つの力」の細かい構成要素が書いてあり、学生はその授業で自分達が行った活動を振り返って、各

能力のグループとしてのレベルを評価します。これを毎回行うことで、「4つの力」を意識することを習慣化させ、「4つの力」の定着と意識付けを図ります。

初年次で学んだ「ピアサポーター」が伝道師

このようにして学んでも、1回限りではなかなか定着させることはできません。三重大学の特徴は、学生の中から「4つの力」のいわば「伝道師」を育てる仕組みを作っていることです。これが、学生が他の学生の生活や修学を支援する「ピアサポーター」制度です（p436参照）。具体的には、「4つの力」スタートアップセミナーを受講して「4つの力」を理解している学生（2年生）が、同じ授業でファシリテーターとして新入生のディスカッションやシートの記入などをサポートします。後輩が「4つの力」をどのように理解していくかを見る経験を通して、自らもより深い意識付けにつながるができます。さらに、ピアサポーターは、SA (Student Assistant) の卵でもあります。SAの資格を取るためには、「4つの力」に関するさまざまな科目を受講することになるので、SAの学生は「4つの力」を十分理解していることとなります。このように、学生が、いろいろな分野で教員の授業をサポートすることで、授業を受講している学生や授業を担当している教員も「4つの力」を再認識する機会を得ることとなります。

学生の学習での「4つの力」振り返りを、教員の意識改革へ

また、平成22年度からは、学生にとっては授業の振り返りとなるリフレクションシート（次頁参照）に、「4つの力」を軸とした授業評価の機能を持たせました。具体的には、「この授業では『4つの力』のうち、いずれの力が成長するのに役立ったのか」というような質問項目が入っています。この回答を見ることで、教員は、自分の授業で学生がどの力を伸ばしたのかを知ることができますようにしています。従来の授業アンケートは、教員の板書の仕方や声の大きさなどを聞くものでしたが、このアンケートでは、学生の学習振り返りの形で、「4つの力」の中から「自分の持ち味はこれだ」という自覚を教員に持たせることが期待されます。言い換えれば、学生による授業評価を通して、教員自らの授業の特色が可視化され、これによって力点を置く力について各教員が自ら振り返ることができるようになります。

その上で、学生が4年間を通して「4つの力」を身に付けるために、4年間の教育課程の中で自分の授業がどこに位置付けられるかを理解して、その部分にポイントを置いた授業設計をするように、呼びかけます。将来的には、シラバスを改訂し、各授業でどのような力を身に付けさせたいのかを明示できるようにして、これをもとに4年間を通して「4つの力」を身に付けるためのカリキュラムマップを作成することを予定しています。

この教育改革に当たっては、先行的に改革が行われてきた医学部の、「診断課題を事前に学生に提示し、学生が自ら解を見出すべく学習する」=Problem-based Learning方式を学内に広めました。さらに現在は、小中学校の教育研究や教育実践に知見を有する教育学系の教員も参画し、改革を進めています。「4つの力」スタートアップセミナーは、高等教育創造開発センターの専任教員や兼務教員も企画・実施を行います。その実施のた

リフレクションシート／授業改善のためのアンケート

授業改善のためのアンケート(案)

2010年度 前期

V. 教育改善の項目

この授業をもっとよくするためには、どのような点を改善すればいいと考えますか。
 下の項目の①～50から選び、別紙マークシート用紙の該当部分にマークしてください。いくつ選んでもかまいません。
 回答方法は、「IV」の回答方法と同様です。裏面のマーク例を参考に回答して下さい。
 ※ 選択内容に関する補足や、この選択肢にない内容は、35の記述欄にお書き下さい。

V. 項目リスト

| | |
|--|---|
| 授業の概要の説明(口頭、シラバスなどによる) 31. 授業の目的・到達目標の説明 32. 授業全体の計画、学習内容の説明 33. 成績評価の方法、評価基準の説明 教室内で使用する教材 34. 授業内で提示される資料(板書や投影資料など) 35. 配付資料・Web資料など(Moodleも含む) 教員の行動 36. 話し方(聞き取りやすさなど) 37. わかりやすい説明 38. 発展的な内容の説明 39. 学習内容の具体的な活用方法の説明 40. 私語・遅刻・睡眠・携帯メールなど 不謹慎な行動への対処 | 学生参加の機会 41. 学生自身に考えさせる工夫 42. 質問の機会 43. 学生との対話の機会 44. 学生同士で考えを深め合う場や機会の提供や支援(グループ活動の実施や支援など) 授業外学習のための支援 45. 自学自習のための教材・資料等の情報(参考図書・参考資料等も含む) 46. 授業時間外での課題(宿題も含む) 47. 学習に対する助言や補足 48. 質問や課題への適切な対応 49. Moodleや電子メールなどの使用 その他教員から指定のある項目 50. (教員が指定する項目) |
|--|---|

VI. 学部付加項目／教員付加項目

学部・教員から設問が出された場合は、選択肢を指示に従って選んで下さい。

| | |
|--|--|
| ※授業担当の先生方へ 今後の授業改善に役立てるために聞いてみたい事柄がある場合にはこちらを自由にご利用下さい。どの番号でどんな設問で尋ねるか控えておいてください。 | 選択肢1 選択肢2 選択肢3 選択肢4 選択肢5 51 1 2 3 4 5 52 1 2 3 4 5 53 1 2 3 4 5 54 1 2 3 4 5 55 1 2 3 4 5 56 1 2 3 4 5 57 1 2 3 4 5 58 1 2 3 4 5 59 1 2 3 4 5 60 1 2 3 4 5 61 1 2 3 4 5 62 1 2 3 4 5 63 1 2 3 4 5 64 1 2 3 4 5 65 1 2 3 4 5 |
|--|--|

VII. 授業改善に関する記述欄

別紙マークシート用紙の裏面に記述してください。
 なお、記述された文字はOCRで読み取られます。楷書(かいしょ)でできるだけ丁寧に記述してください。
 ※学部からの指定がある場合は、それに従ってください
 66 先生に続けてほしいと思うこと
 67 自分が先生だったらこうしたいと思うこと

リフレクションシート／学びの振り返り

学びの振り返りシート

22 年度 前期

学生ID はあなたの学習の履歴を形成していくために用いるものであり、授業担当教員には匿名となります。したがって、授業担当教員は回答に基づいて学生個人に対して何らの働きかけもできません。この調査の目的は、学生が自らの学びを振り返り改善できるように、学びの履歴を提供すること、そして大学が教育を改善するための情報を得ることです。
 以下の設問には、すべて、授業だけではなく、授業外学習も含めて、回答して下さい。
 ※大学の単位制度：
 講義の場合、1回あたり90分の授業と4時間の授業外学習を必要とする内容に対して、2単位が配当されています。

I. 管理項目

- ① 授業コード (教員・TA等による指示に従ってください)
- ② 学部等指定管理項目 (教員・TA等による指示に従ってください)
- ③ 学生ID

II. あなたの学びに関する項目

下の項目について、あてはまると思う数字を選び、別紙マークシート用紙にマークしてください。

| | | | | | |
|---|---------|------------|-----------|---------|-------|
| | あてはまらない | あまりあてはまらない | どちらともいえない | ややあてはまる | あてはまる |
| 1 総合的に判断して、この授業に満足できた。 | 1 1 | 2 2 | 3 3 | 4 4 | 5 5 |
| 2 授業内外の学習に取り組むために、シラバスを活用した。 | 2 1 | 2 2 | 3 3 | 4 4 | 5 5 |
| 3 この授業の内容について理解できた。 | 3 1 | 2 2 | 3 3 | 4 4 | 5 5 |
| 4 新しい知識・考え方・技術などが獲得できた。 | 4 1 | 2 2 | 3 3 | 4 4 | 5 5 |
| 5 この授業の受講によって、学業への興味・関心(意欲)が高まった。 | 5 1 | 2 2 | 3 3 | 4 4 | 5 5 |
| 6 この授業で学んだことや考え方について、意識するようにしたり実際に試してみたりした。 | 6 1 | 2 2 | 3 3 | 4 4 | 5 5 |
| 7 学びを深めるために、調べたり尋ねたりした。 | 7 1 | 2 2 | 3 3 | 4 4 | 5 5 |

選択肢1 選択肢2 選択肢3 選択肢4 選択肢5

| | | | | | |
|--|-----|---|---|---|---|
| 8 授業1回当たりの授業外学習(予習・復習・課題や試験のための学習・関連する読書や活動など)は何時間でしたか。 1. 30分未満 2. 30分～1時間未満 3. 1時間～2時間未満 4. 2時間～4時間未満 5. 4時間以上 | 8 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
|--|-----|---|---|---|---|

| | | | | | |
|--|-----|---|---|---|---|
| 9 この授業を何回欠席しましたか。 1. 0回 2. 1回 3. 2回 4. 3～4回 5. 5回以上 | 9 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
|--|-----|---|---|---|---|

III. 4つの力に関する項目①

下の項目についてあてはまると思う数字を選び、別紙マークシート用紙にマークして下さい。(4つの力は授業外学習も含め、大学生としての活動のすべてを通して身につけるものです。さらに、各授業においても、4つの力の重点度には軽重があります。その意味で、いくつかが「成長しなかった」でも結構ですので、4つの力のすべてに回答して下さい。)

| | | | | |
|-----------|------------|--------|----------|---------|
| 全く成長しなかった | わずかながら成長した | 少し成長した | ある程度成長した | かなり成長した |
|-----------|------------|--------|----------|---------|

| | | | | | |
|---|------|---|---|---|---|
| 10 この授業を通して、「感じる力」が成長したと思う。 | 10 0 | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 11 この授業を通して、「考える力」が成長したと思う。 | 11 0 | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 12 この授業を通して、「コミュニケーション力」が成長したと思う。 | 12 0 | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 13 この授業を通して、「生きる力」が成長したと思う。 | 13 0 | 1 | 2 | 3 | 4 |

IV. 4つの力に関する項目②

下に示す「4つの力の構成要素」の観点について、この授業を通して成長したと思えるものを選び、別紙マークシート用紙におけるその番号のマーク欄をマークして下さい。いくつ選んでもかまいません。

- 感じる力
 14. 感性 15. 共感 16. 倫理観 17. モチベーション 18. 主体的学習力 19. 心身の健康に対する意識
- 考える力
 20. 幅広い教養 21. 専門知識・技術 22. 論理的思考力 23. 批判的思考力 24. 課題探求力 25. 問題解決力
- コミュニケーション力
 26. 情報受発信力 27. 討論・対話力 28. 指導力・協調性 29. 社会人としての態度 30. 実践外国語力

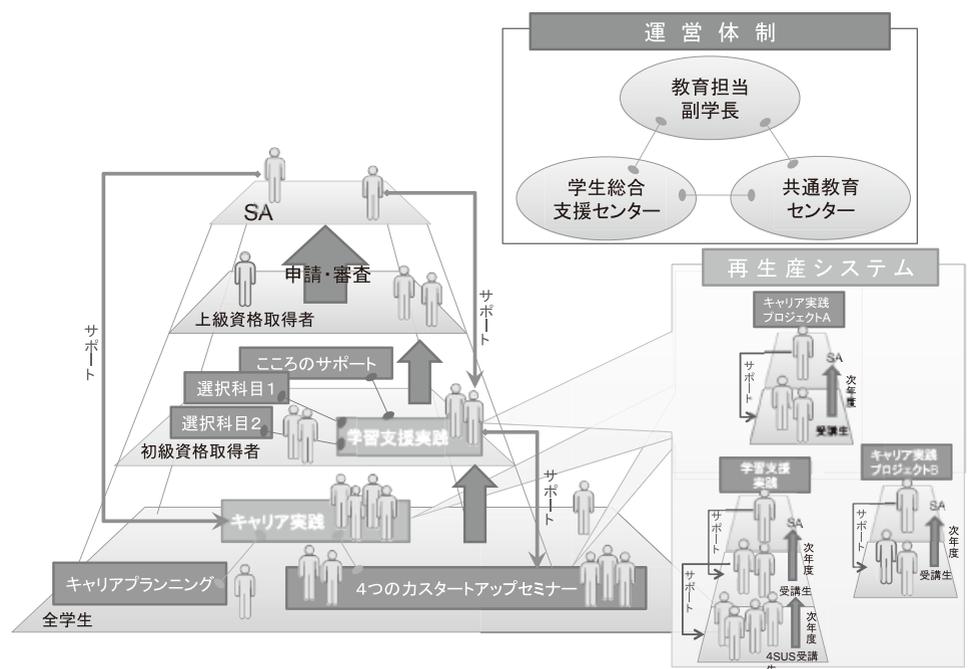
記入例

感じる力 14 感性
 考える力 23 批判的思考力 24 課題探求力
 コミュニケーション力 27 討論・対話力

と回答したい場合、右図のように記入して下さい。

| | | | | | | | |
|--|------------|----|----|----|----|----|----|
| IV. 項目 に4 関つ すの ② る力 | 感じる力 | 4 | 15 | 16 | 17 | 18 | 19 |
| | 考える力 | 20 | 21 | 22 | 23 | 24 | 25 |
| | コミュニケーション力 | 26 | 27 | 28 | 29 | 30 | |
| | | | | | | | |

キャリア・ピアサポーター資格教育プログラム



図版提供 三重大

が保証された少数精鋭のSAが輩出され、将来社会で活躍することで、三重大学の教育がブランドとして確立するとともに、「4つの力」が社会で認知されることを期待しています。

めに採用された心理学などを専門とする数人の教員が中心となってカバーする形になっています。専門分野のプロである個々の教員の授業のあり方を尊重しながら、「社会人基礎力」の典型とも言える「4つの力」の育成を全学的に浸透させようとする好例です。

ピアサポーター制度とSAの質の向上を通して、大学教育を社会に認めさせる

ピアサポーターには、初級資格・上級資格があり、上級資格を取得した上で所定の科目を履修すると、SAの資格を申請することができます。具体的には「『4つの力』スタートアップセミナー」で、原則として10段階評価で8以上の成績を取り、さらに「キャリアアッププランニング」や「キャリア実践」などの科目を履修すれば、「キャリア・ピアサポーター初級資格」が与えられます。初級資格を取った学生は、「学習支援実践」科目で、1年生の「『4つの力』スタートアップセミナー」にファシリテーターとして参加して、「キャリア・ピアサポーター上級資格」を得ます。上級資格を取得した学生は、「学習支援実践」科目で、今度は初級資格の学生の授業補助を行うのです。これが「ピアサポーター再生産システム」です。

ピアサポーターの学生には、最初から受け身ではなく「自分達が次代の三重大を作る」という意識付けをさせ、挨拶などの社会的マナーも含めて指導します。このように、ピアサポーター制度で、SAの質の保証も図ることもできます。質